

ORIC*NEWS*

翔飛 ひこう

No.5 (2004.7)



ORICの中庭

- 目次 -

巻頭言	2
研修・交流会活動	3～5
入居者の活動・トピックス	5・6
入居企業の紹介	7
第7回入居審査会	7
Information	8
入居案内	8

巻頭言

「産学官連携の多様化」

岡山大学 理事 副学長

大崎 紘一



岡山県にインキュベーションセンター（ORIC）が開所し、県内のベンチャー起業希望者の拠点として、多くの起業家が集い情報交換できる場所ができたことは、次世代の経営者群を育成することができ、岡山県発の新産業の創立や経営者の輩出による今後の発展が期待できます。

岡山大学では、平成 16年 6月までに 5 件の大学発ベンチャーが起業し活動しています。ORIC には妹尾先生の㈱ピークル、元教授の高島先生の(有)T・I 研究所、その他岡山大学の関係する 2 社が入居し活動されています。

岡山大学のベンチャー起業の最近の状況ですが、その機運が高まり起業を希望する教員が多くなってきています。ORIC に入居するまでの起業の準備期間中に学内で同じ志を有する教員の拠点として、遅まきながらベンチャービジネスラボラトリー（VBL）内にベンチャー起業室を設けました。入居者は、起業化後 ORIC に入居し、益々発展するような仕組みにするつもりです。

岡山大学における産学官連携の取組は、企業等との共同研究を基本にして、文部科学省等の補助金による産学官プロジェクトの実施、知的財産の創出・権利化・管理、ベンチャー起業、最近では人材育成とその活動が多様化してきています。特に産業構造の変化に伴い、新分野への取組において、大学への知的資源に対する期待が高く、企業は必

要な知的財産を教員との面識がなくても大学から取得し、新分野の開拓を行えるようにするための機能を有する知的財産本部（研究推進・産学官連携機構）を設置し、活動を開始しています。岡山大学の知的財産本部は、知的財産を創出、出願、管理する機能を有しており、教員から届けられる発明を大学有として出願し、特許として管理する活動が主であり、技術移転機能は含まれていませんので、本年 4 月に岡山県産業振興財団に設置された「岡山 TLO」に技術移転を依頼します。

リサーチパーク内に知的財産の技術移転を支援する岡山 TLO（技術移転機関）、ベンチャー起業を支援する ORIC の設置により、既存の機能を含めて岡山県の特徴ある産業創成、技術創成をする拠点が形成できたと考えています。この拠点を発展させるためには岡山産学官連携推進会議による方向性の提示と 3 者の協力体制が不可欠であります。

大学が法人化され、知的財産を大学有にする、その知的財産を岡山 TLO を通して企業に技術移転するという、一方向の流れだけでは、多くの多様な企業の技術的ニーズには対応できず、3 者の関係は弱いものになることは明白です。多くの企業のニーズを岡山 TLO を介して大学に取次ぎ、共同研究等を行って初めて新しい知的財産が生じることが多々あります。このような双方向関係が確立できれば岡山 TLO を介しての産業創出、人的交流の輪が広がり、地域の活性化での大学の役割も果たせることとなります。

岡山大学における多様化した産学官連携の機能を統括するために、知的財産本部に研究推進、産学官連携、知的財産管理の 3 部門を設け、活動の統合をしています。

リエゾンオフィス、知的財産本部の事務室を、改築し瀟洒になった旧事務局庁舎に開設していますので、是非一度お訪ね下さい。



岡山大学地域共同センターのセミナーの様子
「振動の基礎（計測実習付き）」（2004/6/25）

研修・交流会活動

4 月度 ORIC交流会及びセミナーの開催

事業紹介：(株)夢石庵

ORIC一周年目を迎え、4月23日に交流会を盛大に開催しました。

事業紹介は(株)夢石庵が行いました。(株)夢石庵は食生活向上のための総合的支援を行うパーソナルフードケアシステム、同社の表現によれば自然と同一化を感じるような食をパックして会員へ直接販売する事業と大豆素材を利用した乳酸菌テンペ菌により発酵食材の開発、廃棄処分されることが多いオカラに乳酸菌を加え2週間程度は腐敗しない乳酸菌オカラを作り、更にテンペ菌を加えることで、新しい食材であるテンペオカラを作る研究を行っています。当日は、会社説明とともに季節感のある食を加工した惣菜も披露されました。



(株)夢石庵による事業紹介

産学連携：岡山理科大学

つづいて岡山理科大学学外連携推進室の吉田産学連携コーディネーターより、『岡山理科大学の産学連携の取組み』の話がありました。大学として、産学連携は広い視野の研究者の育成と研究成果を地域に還元する等の地域貢献も大切な使命であり、企業サイドにとっては、企業の自前主義を脱却し、大学シーズを見抜く目が大切であることなどを説明された後、また学外連携室の気軽な利用や、年一回開催しているOUSフォーラムの案内がありました。

ORICセミナー：

『特許の実務 - 発明が特許されるための要件 - 』

引続いて、板野特許事務所の板野弁理士より、

発明が特許されるための3つの要件（主体的要件・客体的要件・手続的要件）について詳しい説明、特許出願に関連する公的料金や弁理士の報酬についての話がありました。また、最後に依頼者は弁理士には得意不得意があることを知って、弁理士の専門性を考えて依頼することが大事であると締めくくられました。

なお交流会や入居企業について、RSK山陽放送の県政放送『ORICが出来て1年がたって』の特集番組（5月15日放送）の取材がありました。

5 月度 ORIC交流会及びOIAセミナーの開催

事業紹介：アドテック(株)

5月の交流会はおかやまインキュベータ協議会（OIA）と共催で開催しました。

事業紹介はアドテック(株)が行いました。

アドテック(株)は東京都千代田区に本社をおき、半導体や液晶製造関連の課題解決を目指し設立された会社で、岡山大学理学部本水教授のシーズ（FIA法）を活用し、ORICに研究所を開設されました。

半導体製造工程における金属汚染は製品性能に深刻な悪影響を及ぼすため、不純物を管理する分析が重要です。現状の分析の問題点は、分析費用が高く、長時間かかることです。同社では高純度薬液の不純物汚染は多くの場合Fe(鉄)を含んでいることに着目し、Feを不純物の代表として管理し、FIA法を利用して検出するもので、従来1日要していた分析時間が、10分程度で測定できる廉価な不純物モニターの開発と薬液カートリッジの容器及び薬剤の開発を行っています。

OIAセミナー：

『ベンチャー支援プログラムのご紹介』

今月のセミナーは平成16年度第1回OIAセミナーとして実施しました。

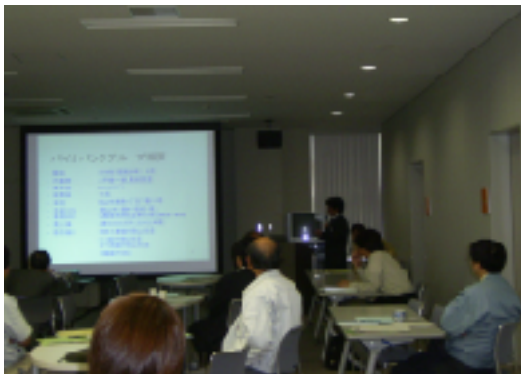
最初に岡山県産業労働部新産業振興課より『補助金活用のポイント』と題して、補助金の概要、補助金申請に当たって注意すること、特に事前に提出し計画書の内容を担当者に確認してもらうことや、計画書がアバウトな形だと審査会が通りに

くいので、見積等をとって作ること、審査会で事業に対する熱意をみせること等担当者ならではのコメントがありました。

引き続き岡山県産業振興財団より『新規創業に役立つ支援制度』紹介がありました。

起業家による体験談：バイオバンク(株)

続いて、ORIC入居企業であるバイオバンク(株)から会社の概要、同社製品の乳酸菌アミントールMの酪農における堆肥化促進(時間を十分の一に短縮、180日から14日)・消臭や養殖の水質浄化の効果の説明の後、平成16年1月21日～22日に公的支援で参加した東京国際フォーラムについての報告がありました。入場者数が3万人と多く、錦鯉の餌の食べ方の差やアンモニア消臭テスト等で人目を引いた為、当社ブースで300人と名刺交換アンケート回収が出来その後のフォローで30社にサンプル出荷し、多くの商談と引合いがあったとの発表がありました。



バイオバンク(株)による体験談の発表

6月度 ORIC交流会及びセミナーの開催

事業紹介：(有)アイ・エス・ティ 財団法人岡山県産業振興財団

6月交流会は6月24日に行われました。

(有)アイ・エス・ティは吉井社長がシステム会社等勤務の経験を活かし、VPN構築・グループウェアの構築・ホームページの作成を柱に平成14年に設立し、ORICに入居した会社です。

現在の事業としては、パソコンなどを導入したが有効活用できない中小企業(従業員5～50人程度)を対象に、定額でパソコン活用度と業務内容を分析し、パソコンの有効活用と業務効率改善をアドバイスできる「IT診断書」の作成提案を行うこと、また顧客から要望があれば「IT診断書」に基づいた問題解決「ITリフォーム」と継続し

てサポートを行う「ITサポート」を行っているとの紹介がありました。

つづいて財団法人岡山県産業振興財団から1日財団キャラバン隊と題して、財団の概要・事業支援機能の紹介がありました。「開かれた産業振興財団」・「徹底したサービス」を目指しており、どんな事でも相談して欲しいとのことでした。



岡山県産業振興財団による事業説明

ORICセミナー： 『企業の情報漏洩と マネジメント・システム』

今回のセミナーは最近特に問題化している情報漏洩とマネジメント・システムについて、ORIC入居企業(210号室)である(株)ザイン社長手銭克己氏(ISO・ISMS主任審査員)が講演しました。(株)ザインは専門家による適切な経営改善指導を目的に平成14年に設立されたベンチャー企業です。

情報の漏洩がマスコミに毎日のように取り上げられる現状から情報セキュリティが必要とされる背景の社会的要請や個別対策の限界を説明、情報セキュリティ対策のビジネスチャンス、セキュリティ規格の種類、ISMSとプライバシーマークの違いや取得方法等についての説明がありました。なお当日NHK岡山放送局より個人情報セキュリティ関連のローカル放送向けの取材がありました。



(株)ザインによるセミナー

『ORIC IT研究会』開催

7月2日に第1回IT研究会を開催しました。IT研究会は現在ORICへ入居している15社のIT企業の集積を活かす機会の1つとして、IT系企業の交流の場を作り、入居企業同士の連携、アライアンス活動を促進する目的で開催するものです。

参加対象企業はORIC入居企業の有志、IT企業・IT企業との連携や活用を検討している企

業・ITに興味がある企業とし、外部からの参加も認めています。

第1回目の参加者は入居企業12社(内IT系10社)14人を含め19名となりました。参加者の自己紹介、各社の事業紹介とシーズ・ニーズ紹介を中心に行いました。

参加者の皆さんとも熱心に各社の説明を聞きメモ等を取り、情報交換をされました。今後2ヶ月毎に開催(次回は9月)を予定していますので、積極的にご参加下さい。

入居者の活動・トピックス

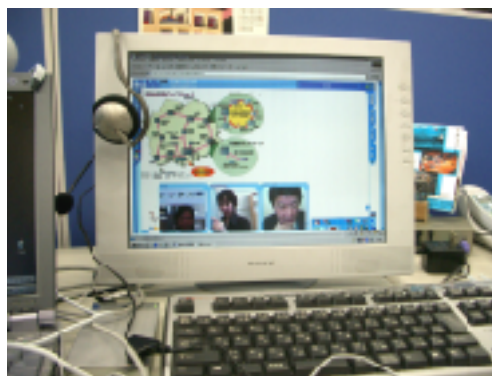
茂木大臣、来所

4月17日、茂木IT担当大臣が倉敷市で行われたタウンミーティング出席にあわせ、ORICをご視察されました。

最初に岡山県産業労働部の安部産業戦略推進監と松尾インキュベーションセンター長からPFI事業としてのORICの概要、入居企業の説明を行ないました。その後入居IT企業の内、㈱レックウエルとシックス㈱の2社を訪問されました。

㈱レックウエルでは、e-learningの講義コンテンツ作成について、シンプルな操作より、講義コンテンツが、映像音声手書き情報で簡単に出来ることを実演しました。

シックス㈱では、同社が開発した多地点間電子会議(岡山県に納入済)システムによる模擬会議



シックス㈱開発のTV会議に参加される茂木大臣

に参加され、実際に画面を見ながら遣り取りされました。

茂木大臣は興味深く色々な質問をされ、また各社の社員の方々とも和やかにお話されました。

県政広報番組『快適！晴れの国』においてORICを特集放送



テレビ撮影、取材の様子：オーニット㈱(左)、㈱レックウエル(右)

オープン1年を迎えたORICの特集が山陽放送県政広報番組『快適！晴れの国』において、『羽



ばたけベンチャーの夢』と題して5月15日・16日に放送されました。

内容はORICの現状・入居企業の代表者に対するインタビュー・月1回開催のORIC交流会の様子や参加者へのインタビュー・インキュー

ションマネージャーの活動状況・岡山県の考え方等でした。

㈱光フィジックス研究所 『フェムト秒レーザーに関する勉強会』

5月15日ORIC入居企業㈱光フィジックス研究所とサイバーレーザー㈱による『フェムト秒レーザーに関する勉強会』がナノプレジジョンエリア極微細加工技術研究会講演会として開催されました。

世界最高水準の波長変換技術と産業用途にも使える安定性・信頼性を有するサイバーレーザー社の製品の開発経緯・性能・フェムト秒レーザーの現状や将来性についてサイバーレーザー社関田社長他のお話がありました。

㈱ピークル 研究所開所記念講演会

5月19日14時より、ORIC入居企業㈱ピークルの開所記念講演会が開かれました。

西出中国経済産業局長の挨拶に続いて、大阪大学大学院教授でアンジェスMG㈱取締役の森下竜一氏から『大学発ベンチャーの現状と将来』、就実大学薬学部教授で㈱iGENE社長の須藤鎮世氏から『ベンチャー企業設立 株式会社iGENEの場合』の講演がありました。

森下教授は自身の起業の経験から特許（確保）戦略の重要性・販売権譲渡による資金調達・企業運営者（CEO）の確保・アンジェスMGの研究テーマである国民病だった動脈硬化症を治す血管再生薬の開発や遺伝子を物質に入れる道具であるベクターの研究等についての話がありました。

須藤教授は自身の民間での研究生活を振り返りながら、人と人との繋がりから現在があること、企業内、官庁との間で苦労したお話の後、iGENE設立の背景（RNAの技術、ヒトゲノムの完全解明、感染症や遺伝的難疾病、ベンチャー創業）や大学発認定企業、産業技術総合研究所内に研究

所を設立した問題点、研究者から広く出資を募った関係から上場が難しい点のお話がありました。

その後㈱ピークルより、開発中のナノバイオ粒子による遺伝子・薬剤のピンポイント導入法の実用化について説明と各大学の研究者を中心としたメンバーの紹介がありました。

なお㈱ピークルは4月15日第4回バイオビジネスコンペJAPANにおいて、優秀賞を受賞されました。



開所式、講演会場の様子

㈱ VOIPACK JAPAN 岡山空港に無料 IP電話設置

7月1日の山陽新聞に入居企業 VOIPACK JAPAN（215号室）が岡山空港2階国際線出発ロビーで無料のIP電話サービスを提供するとの記事が載りました。

毎日運行している上海便（中国東方航空）の搭乗者を対象に、フライト1時間前から無料で利用できる仕組みです。

VOIPACK JAPANでは中国に出先や取引先を持つ地元企業などと、6月末で45社189回線のIP電話を契約しており、上海利用者の利便性と自社の知名度アップを狙ったものです。

新聞に取り上げられた以降、同社のIP電話への問合せが大幅に増えたとのこと。

入居企業の紹介

株式会社レックウェル

(株)レックウェルは、親会社である(株)メレックの一部門として約1年間、インターネットを利用したeラーニング関連システムを提供していましたが、平成15年11月19日に業務拡充のため独立致しました。

岡山に開発・サポートと販売の拠点をもち、東京にも販売拠点を設け事業活動を行っています。主に販売している製品は、電子教材作成ツール「MST(エムエスティ)」と運営・管理システム「MSTeLMS(エムエスティ イーエルエムエス)」です。

eラーニング事業を継続していくために一番の課題となるのは「電子教材(コンテンツ)」作成です。一般的な電子教材の作成は、高度なスキルを要するため外注する事が多く、そのためコストと時間がかかり教育内容の変化に迅速な対応が困難です。

その点、「MST」では、ペンタブレットで操作画面上に説明を手書き入力し、同時に音声を録音するだけで電子教材を作成できますので、電子教

材の内製化を図りコスト削減へと繋げることが可能です。

また、作成した電子教材はeラーニングの世界標準規格SCORMにも対応しており、既存のLMSシステムでも配信可能です。「MSTeLMS」は、専門知識を用いる事なくeラーニング事業を運営・管理する事ができるシステムです。

受講者管理・電子教材の配信、管理やメール・掲示板など多様な機能を取り揃えています。現在は、eラーニングを教育分野のみならず企業にも提供できるような様々なビジネスモデルを考案しています。

会社概要

代表者	國富 郷太郎
設立	2003年11月19日
資本金	2000万円
T E L	086-286-8711
U R L	http://www.lecwell.co.jp/

第7回入居審査会 - 入居内定者の紹介 -

去る6月30日に第7回審査会が開かれ、厳正なる審査の結果、下記の3社の入居の内定が発表されました

入居内定企業名 代表取締役	事業の概要	本社所在地	分野
(株)シスコ・コミュニケーションズ 川西 博仁	機械式メータに設置することでデジタルデータを取得できるセンサーとデータ管理用のGISシステムの開発販売	岡山市	IT
花田技研工業(株) 花田 義和	溶融スラグに表面処理と着色加工処理し、着色骨材として再利用する商品開発と販売	英田郡 大原町	もの作り
(株)英田エンジニアリング 青山 操男	固気流動層を用いた乾式比重分離技術に基づく多重回収システム装置の開発と経済効果の研究	英田郡 英田町	もの作り

現時点(2004年7月)での入居者数は38社、入居室数は47室になります。

入居者の内訳は、分野別では IT関連 15社 もの作り 33社

所在地別では 県内 29社 県外 9社 になります。

Infomation

トマト銀行の制度ローン

平成 16年 5月よりトマト銀行が CRIC入居企業向けローンの取り扱いをスタートしました。新製品や新技術開発に取り組んでいるベンチャー企業が立ち上がり時期に一番苦悩する資金調達を支援し、地域活性化を図るものです。

<ローンの概要>

融資対象者:

・CRICの入居企業で卒業後もトマト銀行の営業区 域内

で事業を行う方

・入居時の事業計画・最新の事業計画の提出及び6ヶ月毎に実績説明

貸出条件:

- ・融資金額 5百万円(増額が必要な場合は個別審査)
- ・金利 3.5%以上の短期プライムレート連動型
- ・融資機関 5年以内(1年の据置可能)
- ・保証人 第三者保証人不要(法人の場合は場合は代表者、個人の場合は配偶者等の親族1名)

岡山テクノプラザ'04 i東京ビッグサイト - 参加企業募集のご案内 -

参加分野: 超精密生産技術、医療・福祉健康関連、環境関連、バイオ関連 等

展示方法: 2004年度学官技術交流フェアの展示会場に併設する

参加対象者: 新製品・新サービスを有する個人及び中小企業者

開催場所: 東京ビッグサイト

開催日程(製品展示):

平成16年9月29日(水)、30日(木)、10月1日(金)

募集期間: H.16年6月10日(木)~7月30日(金)

募集方法: 公募(但し、応募多数の場合は選考)

出 展 料: 100,000円/1小間

<http://www.optic.or.jp/zaidan/keiei/techno04/>(詳細)

応募用紙は上記ホームページからダウンロードできます。

『@ベンチャーOKAYAMA』 - ビジネスプラン募集のご案内 -

応募資格:

全国の個人で、2年以内に岡山県内で新たに法人を設立し、応募プランの事業化を目指す者。

募集期間:

平成16年6月1日(火)~8月31日(火)まで(必着)

表 彰:

最優秀賞(1名) 賞金500万円

優秀賞(若干名) 賞金300万円

応募方法:

所定の応募用紙に必要事項を記入のうえ、下記事務局までE-mailまたは郵便により送付してください。なお、応募用紙は当コンテスト募集要領のホームページ

<http://www.optic.or.jp/zaidan/keiei/h16vbc/>からダウンロードできます。

問合せ先・申込み先: (財)岡山県産業振興財団 経営支援部 ベンチャー・経営革新グループ

〒701-122岡山市芳賀530テクノサポート岡山 TEL: 086-286-9626 FAX: 086-286-9627

入 居 案 内

CRICでは、意欲と能力にあふれたベンチャー企業の入居を募集しています!!

随時、入居のご相談に応じていますので、ご連絡下さい。

施設使用料

施設区分	面積	部屋数	使用料の月額
研究室 小	約 25 m ²	22	45,000 円
研究室 大	約 50 m ²	30	88,000 円
試作開発室	約 100 m ²	6	175,000 円

- ・入居後3年間は、更に1/2減免の制度もあります。
- ・複数室の利用も可能です。

募集概要

対象: 情報通信や、ものづくり分野を中心に新技術・新製品の開発、創業を目指す個人・グループ・企業。

期間: 3年以内(再申請もできます)。

審査: 入居にあたり、審査があります。

次回募集

原則として3ヶ月毎に入居者審査会を開催しています。

今回は8月末日までに事業計画書を提出された方を対象に、9月中に審査会の開催を予定しています。

(参考)【入居可能研究室】(2004年7月現在)

研究室小 (25m²) : 2室

研究室大 (50m²) : 2室

試作開発室(100m²) : 5室

お問い合わせ

岡山リサーチパーク インキュベーションセンター

TEL: 086-286-9116 FAX: 086-286-9117

E-Mail: info@oric.ne.jp

詳細はCRICホームページをご覧ください。

<http://www.oric.ne.jp>